



ノーコード/ローコードのkintoneで 内製化を実現する方法

目次

- はじめに
- 今注目の「内製化」とは？
- 「ノーコード/ローコード」とは？
- kintone(キントーン)とは？
- NDISのkintone導入事例インタビュー&社長の声
- 必要なものを正確に作ってもらうのは難しい
- 「内製化」早い話が…必要なものは自分たちで作るDIY
- 忘れてはならない大前提:今は将来の予測が困難な時代
- 今企業に内製化が求められている2つの理由
- ①ビジネスの変化にスピーディーに対応しなくてはならない
- ②あらゆる場面でデジタル技術を活用しなくては勝ち残れない
- 参考)kintoneをもっと知りたい方はこちら
- ご参考) 内製化支援サービスでkintoneの内製化サポートが可能です
- ご参考) NDIS内製化支援サービスの強み
- まとめ

はじめに

テレビCMも流れているので、「サイボウズのkintone」をご存じの方も多いのではないでしょうか？業務システムの内製化を進める企業が増加傾向にあります。これを可能にしたのが『ノーコード』のサービスでkintoneが先駆けと言えます。

kintoneは、企業が高額なシステム開発から脱却し、システムづくりの内製化を実現するにうってつけの製品です。しかし「kintoneで何ができるか？」「なぜ内製化を進める企業が増加傾向にあるの？」という疑問を持たれる方も多いようです。

そこで本資料では「kintone」と「内製化」の重要性や、内製化を進めるためのヒントについて事例等を交えて分かりやすくお伝えします。

弊社でも「kintoneでシステムづくりの内製化」を実現したからこそお伝えできることです。本ガイドが企業のkintone活用と内製化を成功に導くためのヒントとなれば幸いです。



今注目の「内製化」とは？

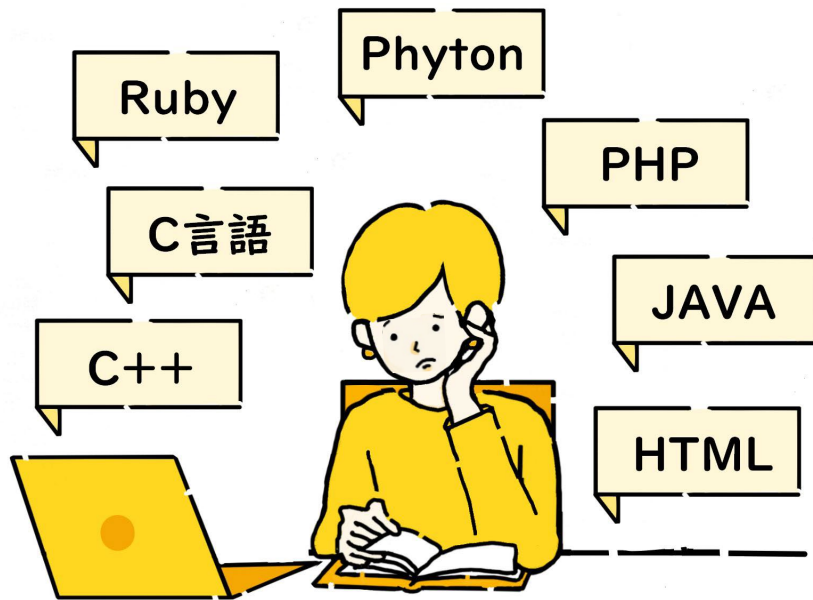
内製化とは、これまで当たり前とされてきた「委託開発」とは逆に、自社でシステムなどを開発・構築することを言います。

委託開発:企業が求めるシステムを開発・構築してもらうため、外部の会社へ発注すること。

内製化:企業が外部の会社へ委託していたシステムの開発・構築を、自社内で行うこと。

この**内製化のカギ**が
ノーコード/ローコードです。

従来様々なプログラミング言語で開発していた(されていた)システム開発ですが、もうプログラミングは不要です！

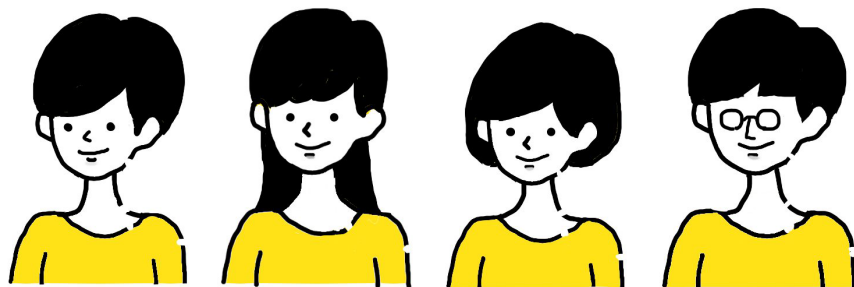


「ノーコード/ローコード」とは？

「ノーコード/ローコード」

プログラム開発言語を全く使わずあるいは、ほとんど使うこと無く
アプリケーションの開発を行うこと

「ノーコード/ローコード」ツールの登場により、内製化はIT未経験者にとってずっと身近になりました。情シス部門でなくても、プログラムを知らなくても、カンタンにシステムを構築でき、業務改善を進めることができます。



ノーコード/ローコードのツールはさまざまなものがありますが、弊社のおすすめはkintone(キントーン)です。



課題解決のための業務システム=アプリを作って使える 業務改善クラウドサービス

特長

- ① 業務システム(アプリ)をプログラミングなしで簡単に作成
kintoneでは「アプリ」として誰でも簡単に業務システムを作成することができます。あらゆるデータをまとめて「アプリ」に集約できるので、情報が分散しません。
- ② データに紐付いたコミュニケーション
コメント欄を活用すれば、データごとに指示やアドバイスを書き込むことができます。
- ③ 外部サービスや基幹システムとの連携
API連携やプラグインなどを活用すれば、kintoneと外部サービスとのデータ連携や、機能拡張を行くことができます。

チームの仕事が見える化でき、立場や視点がバラバラなメンバーでも使いやすい環境を整備できます。

キントーン
kintone



概要

kintoneは日々の業務課題を解決しながら、快適なコミュニケーションを実現します。表計算ソフトよりも快適に、専門システムより柔軟に、自社でシステムを開発するよりスピーディー&低コストにサクッと、思いついた業務改善をすぐに実行できるのが特徴です。



機能

プロセス管理

全文検索

API連携

コメント欄

スマホアプリ

情報の一元化とコミュニケーション機能により テレワークでも生産性を落とさない最強の仕組みを実現

導入前



Excelや紙による運用で情報が散在している
× 業務に必要な情報を探すだけでも一苦労



新しいシステムを導入しても現場の社員が
使いこなせないと意味がない
× 現場目線のフィードバックを得るのも難しい



基幹システムにたまった大量のデータを
移行するのは大変そう
× 移行作業にあまり時間をかけられない



導入後



さまざまな業務の情報をまとめて、kintoneという
ひとつの場所で管理することができます。
○ 脱エクセル、ペーパーレス化を促進



必要な項目をドラッグ&ドロップで並べるだけで
簡単にアプリを作成できます。
○ 現場メンバーが主体となって業務改善を進められる



連携機能も充実しており、基幹システムや外部
システムとのデータ連携が可能です。
○ 各システムの情報をkintone上で確認できる

ご参考として弊社のkintone内製化事例と
社長が感じたkintoneに対する生の声を
ご覧ください。



● BPA(ビジネスプロセスオートメーション)推進部

西村 美保、玉垣 絵里子

導入の背景・課題

元々は社内に共通化された業務基盤が用意されておらず、Excelを中心に業務が運用されていました。しかし、紙でしか保管されていない情報が数多くあったり、情報へアクセスするだけでも多くの時間がかかってしまったりと、不便かつ非効率な状態が続いていました。テレワークを推進する上でも、情報を円滑に共有できる基盤をいち早く導入する必要がありました。

検討の背景・決め手

十分に整備できていなかった情報管理基盤を整備するにあたって検討したのが、グループ会社間の情報共有のために導入されていたkintoneでした。

kintoneの管理を行っていた社員の退職をきっかけに、メンテナンスのためkintoneに触れる機会があり、「これならITに詳しくない社員でも十分運用できそうだ」と実感したのです。そしてBPA推進部のメンバー全員をkintoneのハンズオンセミナーに参加させたところ、「Excelのマクロすら組めない私であっても、簡単にアプリが作成できることに驚いた」「セミナーに参加している段階から、“あの業務に使えるのでは”というアイデアが次々とわいてきた」といった前向きな意見が出ました。セミナー終了後すぐに物販関連のアプリを1週間ほどで作成し、まずはチームにて活用することになりました。

導入後の運用

はじめは契約の案件管理から取り掛かりました。kintoneとは別に、契約書の電子化のためにクラウドサインを導入していたのですが、kintoneとクラウドサインの双方を連携させて、案件管理情報と紐づけた契約書管理の仕組みを構築することができました。

導入後の成果

kintoneを導入して業務基盤を整備したことで、バラバラだった情報の所在が明確に把握できるようになり、結果的に業務効率化につながりました。

利用した感想・今後の展開

ストックビジネスに関連した情報の管理もkintone上で行っていきたいと考えています。基幹システム内にある保守契約などの情報は全てkintone上で管理できていますが、最近はサブスクリプションのサービスが増えています。これらストックビジネスに関連した情報もkintone上で管理し、受注から請求書の送付まで自動化できる仕組みを整備していきたいです。



BPA推進部 部長 西村 美保

社長が感じた「内製化が会社を変える」NDISの経験談

「業務のプロがデジタルツールを使って、自ら業務改善を行なえる。」

「業務のプロがテクノロジーを知るとすごく強い。」

【弊社 社長とサイボウズ栗山様との過去対談講演より抜粋】



「業務で活躍している女性の社員にkintoneの説明会をやったところ、彼女たちがkintoneの良さに気づいて『これは使えるぞ!』ということでkintoneをどんどん活用し始めました。そうして私の知らないうちに（笑）現場でアプリが増えていきました。」



「産休や育休での勤務シフトの問題などを、**自分たちでアプリを使って解決**していきました。彼女たちは業務のプロです。『**業務のプロがテクノロジーを知るとすごく強い**』という姿を目の当たりにしました。これこそがDXだと思いました。」

社長が感じた「内製化が会社を変える」NDISの経験談

「テクノロジーで企業文化が変わった。」



「SEが業務を知ってシステムを作るという方法もありますが、弊社内での経験から『業務を知っている人がテクノロジーを知って解決することが一番の早道ではないか?』という感覚を持つに至りました。業務のツボやポイントなどの深いところまで知っているのは業務の現場の人ですから。」

「kintoneを活用し始めた以降の彼女たちの会話をこっそり(笑)聞いているとAPIやプラグインといった専門的な言葉が飛び交うようになっていて驚きました。テクノロジーで企業文化が変わった姿だと思いました。」



社長が感じた「内製化が会社を変える」NDISの経験談

「内製化により、デジタル化人材が自然に育つ。」

DXに必要なのはデジタル化人材です。一口に「デジタル化人材」といっても育成は大変です。

NDISは業務現場での内製化により各現場にデジタル化人材が育ち、業務課題をデジタル技術で解決する企業文化への変化が加速しました。



コストと時間をあまりかけず、無理なくデジタル化に取り組めるような企業へ成長できる、これこそが内製化の最大のメリットです。

経済産業省の「DXレポート2」でも記載のあった通り、**環境の変化に柔軟に対応して、自分たちでスピーディーに改善できていく**というのが、これからの企業の在り方であり、内製化を進める企業が増加傾向にある理由です。

『「素早く」変化「し続ける」能力を身に付けること』
これこそが内製化が注目されている理由です。

これまでのシステム開発ではなく
内製化が増加する背景はどんなもののでしょうか？

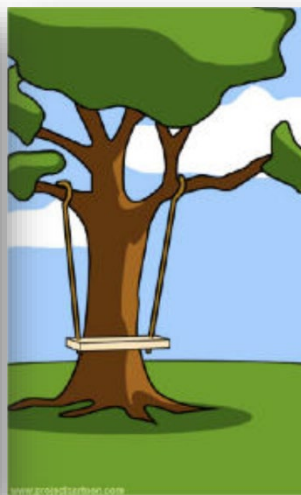


必要なものを正確に作ってもらうのは難しい

下記は、必要なものを伝えて作ってもらうのはこれほどの難しさがある、ということの少しオーバーな例えです。下記の図の「ユーザーが本当に必要だったもの」を見ると、ある程度の技術があれば自分たちで作れそうですね。「自分たちで作った方が早いし、正確。おまけに安上がりでは？」これが内製化の原点です。



ユーザーが
説明した要求



システム設計者
の理解



エンジニアが
作ったプログラム



ユーザーが本当に
必要だったもの



ユーザーへの
請求金額

「内製化」 早い話が…必要なものは自分たちで作るDIY

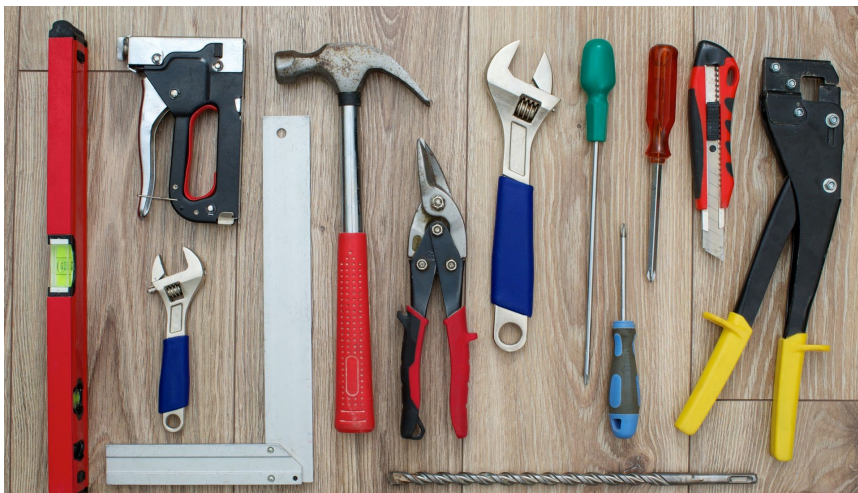
モノづくりにDIYという言葉があります。

DIYとは、「DO IT YOURSELF」の略で、直訳すると「自分(自身)でやる」という意味です。

専門家や業者の力を借りずに、自身の力で何かを作ったり、修理したり、リノベーション(改善)することを意味します。

プロや業者に頼まない分コストが抑えられ、材料費だけで好みのインテリアを手に入れることができます。また、完成に向けて作る楽しさを味わうことが何よりの醍醐味です。

「内製化」とはいわば
システムづくりにおけるDIYなのです。



今企業に内製化が求められている2つの理由

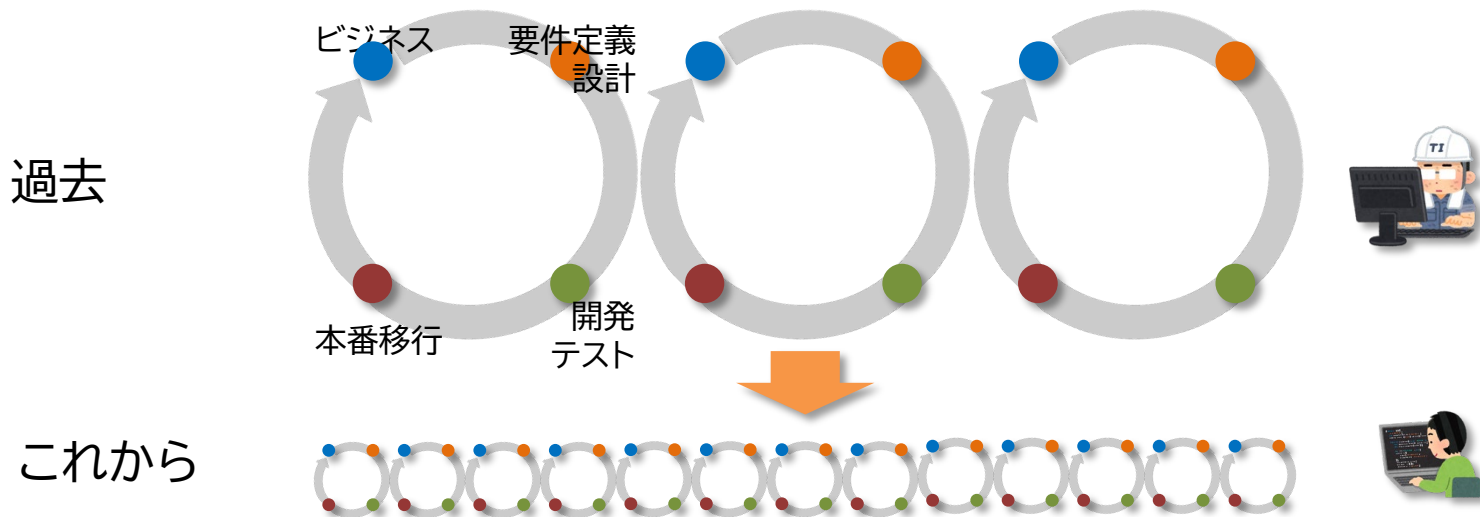
普通に考えれば行きつきそうな「内製化」ですが、これまではあまり必要とされていませんでした。では、なぜ今『内製化』なのか。具体的な理由として以下の2つが考えられます。

- 1 ビジネスの変化にスピーディーに対応しなくてはならないから
- 2 あらゆる場面でデジタル技術を活用しなくては勝ち残れないから

1 ビジネスの変化にスピーディーに対応しなくてはならない

かつては将来を予測し緻密な計画を立てた上で、ニーズに基づいた仕様を固めてその通りに開発する、それがかつての常道でありました。

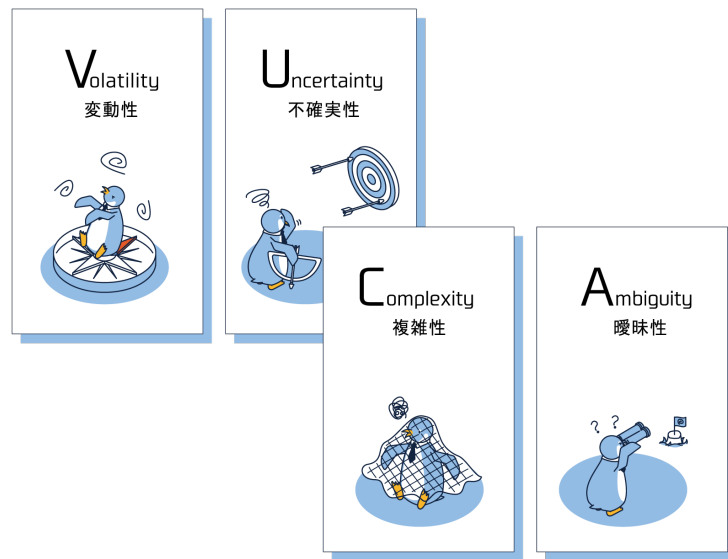
現在はリアルタイムな現場のニーズの変化やフィードバックをうけて小さな単位で、しかも高速にシステムの開発と改善を繰り返し、ビジネスの成果に、いち早く貢献することが必要です。このスピード感は、要件定義～検証～開発～テストなどを経てビジネスに貢献する システムの受託開発に任せていては達成できません。



2 あらゆる場面でデジタル技術を活用しなくては勝ち残れない

テクノロジーの進化による環境の急速な変化に直面し、将来を予測することが難しい時代です。これは、従来のやり方では変化に適応できないことを示しています。そのため、予測することや大きな変化を待つよりも、現在の状況を迅速に理解し、最適な対策を即座に実行することが非常に重要です。

このような社会情勢の中で、すべてを外部のITベンダーに委託して問題を解決できるでしょうか？また、十分な投資ができるでしょうか？実際には、多くの企業が、「システムの構築や改善の一部を自社内で行う必要があると考えており、そうしなければ競争においてスピードやコストの面で優位性を維持するのは難しい」という状況に直面しています。

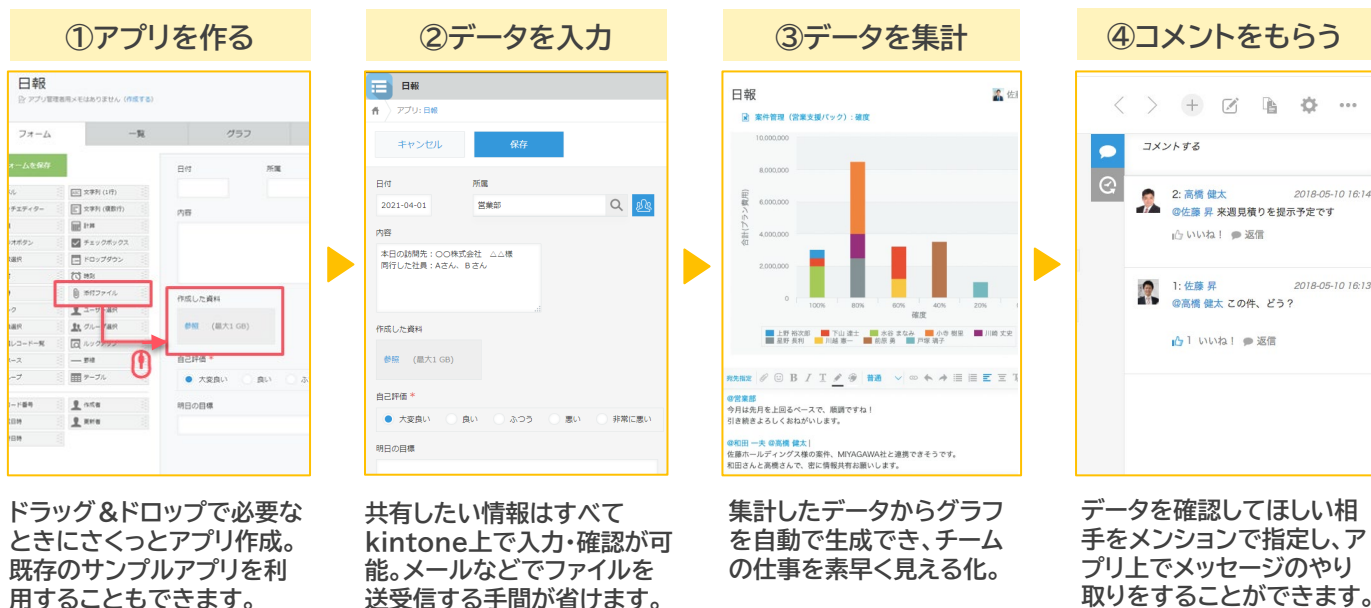


内製化に注目する企業はそれに気づいて変化していこうとしているのです。

・・・スピーディ×デジタルといえばkintone！

kintoneは、アプリも数分で作成でき、作成したらすぐに業務をスタートすることが可能です。さらに**改善が必要と思ったらすぐにアプリを改修(変更)することが可能**です。以下がアプリ作成と使い方の一例です。

基本的な使い方を4つのステップに分けて、kintoneの便利な機能をご紹介します。



内製化に最適といえは・・・やっぱりノーコード＆マウス操作のkintone！

kintoneの特長の1つに「ファストシステム」が挙げられます。プログラミングや専門知識不要で、ノーコード＆マウス操作で項目追加・削除、アプリ作成を実現できどこの部署のどんなお立場の人でも簡単に業務システムを作成していくことが可能です。

ファストシステム

従来の業務システム



システム担当者が
プログラミングや
専門知識を
駆使して開発！

kintone



プログラミングも
特別なスキルも
不要！

マウス操作で
業務アプリを作成可能



まとめ

ここまで、kintoneと内製化についてお伝えしてきましたが、ノーコードだからと言ってすべてが内製化で解決するわけでもないことにはご注意ください。

また「なんでも内製化」する、「自社で解決する」ということではありません。「餅は餅屋」という言葉があるように、複雑なものなどはITベンダーに外注し、プロを活用すべきということに考え方の変化はありません。また内製化には、伴走パートナーを活用し、ツールの使い方を学ぶことが効率的です。

内製化が進むと、デジタル技術/ツールの利用に詳しくなります。そうすれば、ITベンダーに外注する際も的確に指示や依頼ができるようになるはずです。DIYができる人がモノづくりの勘所がわかるように、工数感、コスト感が分かるようになります。

内製化ができる企業は、ITベンダーとも上手に付き合っていけるようになり、健全な関係が築けています。その関係を支えに、業務のプロがシステムづくりを実現できると考えています。みなさまにもノーコードツールと内製化でデジタルを活用できる強い企業になっていただきたいです。



参考)kintoneをもっと知りたい方はこちら

kintoneは会社、部署、社員によって使い方はさまざまです。まずは下記サイトより、kintoneの詳細をご覧ください。

<https://solution.ndisol.jp/kintone>

- 3分で分かるkintoneでできること(動画)
 - こんなことに使えます:利用例
 - kintone 3つの特徴
 - 導入事例
 - kintone 価格
- などのコンテンツをご用意しております。



NDISが導入・アプリ開発をご支援する

kintone

業務アプリ構築クラウドサービス キントーン

お問い合わせ・資料請求はこちら

KINTONE導入事例インタビュー資料ダウンロード

こんなことに使えます: 利用例



参考)内製化支援サービスでkintoneの内製化サポートが可能です

「kintoneによる業務アプリ作成」から始める顧客伴走型の支援サービス

内製化支援サービスは お客様ご自身で継続的にDX(デジタル・トランスフォーメーション)を推進できる様にシステムづくりの「内製化」をご支援するサービスです。月額30,000円~の定額サービスでkintoneやUiPathなど、複数製品のナレッジを追加料金なしでご活用いただけます。



3つのサポートでお客様の
内製化をご支援

安心!
操作マニュアル付

検索: kintone

検索結果: 51件

- Q&A [解決済] [本件] #kintone
Azure AD で kintone にSSO する SAML設定の設計図書の様子はありますか?
doc: チュートリアルチュートリアル: Azure Active Directory と Kintone の統合
2021年10月7日に更新
- 記事 [本件] #kintone #ニュース
(アセット) kintone SFA パック
kintone SFA パックは、以下3つのアプリで構成されたものになります。・顧客管理・顧客担当管理・案件管理・業務
2022年2月28日
- 記事 [本件] #kintone #開発情報
kintone開発サポートドキュメント(標準機能、プラグインの範囲)
ドキュメントの位置づけにkintone開発初心者、プラグインを利用される方向けの開発サポートドキュメント標準ドキュメン
2021年11月10日
- 記事 [本件] #kintone #開発情報
kintoneアプリ開発プロジェクト事例紹介
kintoneアプリ開発プロジェクトの事例紹介します。プロジェクト推進所で開催したkintone勉強会で、プロジェクト運営方
2021年12月16日
- 記事 [本件] #kintone #kintone認定アソシエイト
kintone 認定 アソシエイト 試験対策テキスト 第 2 版) アップデート・訂正情報
kintone認定 アソシエイト試験対策テキスト【第2版】の最終対応&訂正の最終資料です。kintone認定 アソシエイト試験
2022年1月25日
- 記事 [本件] #kintone #kintone認定アソシエイト
kintoneシステム管理者向け説明資料
経営本部様にkintone アプリテンプレートを公開したときにkintoneを触ったことがないシステム管理者向けの経営課
2022年2月16日

タグ: 検索

人気投稿: 2日 30日

- 1 経営者へのメールでのファイル送付の代...
- 2 総務会「さくら餅な...
いコンテナ」Day1...
- 3 総務部「さくら餅な...
いコンテナ」Day1...
- 4 総務部「さくら餅な...
いコンテナ」Day1...

ナレッジWebサイトでは、NDISグループで蓄積された
ナレッジを惜しみなく公開いたします

参考)NDIS内製化支援サービスの強み

◆ナレッジWebサイト

蓄積された弊社ナレッジを全プラン共通でご覧いただけるサイトです。kintoneやUiPathといったDXソリューションの設定や構築に関する情報が公開されております。お客様からのQ&Aもこのサイトで受け付けますので、ナレッジや過去のQ&Aから必要な情報をお客様ご自身で検索することで、お客様内での活用促進に繋がります。

◆テンプレート

実際に弊社で利用し実業務で活用できるようにブラッシュアップしたサンプルアプリです。全プラン共通で無料ダウンロードして、ご利用いただくことができます。現在は、顧客管理・案件管理、人事系申請、RPA管理(BPA-1)などをリリースしております。テンプレートは今後も継続的にご提供していく予定です。

内製化支援サービスをご加入の方には全ソリューション追加料金なしでご利用いただけます。

NDIS内製化支援サービス Webサイト

お客様ご自身によるシステムづくり＝「システムづくりの内製化」をご支援するサービスです。



<https://bit.ly/3TPAIJJ>

内製化支援サービスに関するWebサイト／ダウンロード資料のご紹介

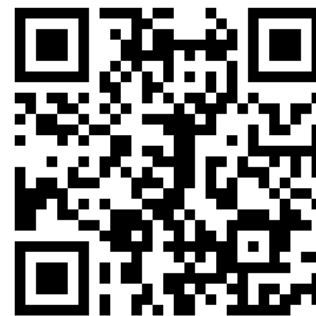


内製化支援サービス Webサイト

お客様ご自身による
システムづくり＝「システムづくりの内製
化」をご支援するサービスです。

>> [製品サイトを見る](#)

※右のQRコード、URLからもダウンロード可能です。



<https://bit.ly/3TPAIJJ>

内製化支援サービス NDI SOLUTIONS

お客様自身でDXを推進！そのお手伝いをいたします。

こんなお客様におすすめです

DX推進で何から始めればよいのか分からない kintone・UIPath導入しているが活用が広がらない

内製化支援サービスとは

内製化支援サービスは、お客様ご自身で継続的にDX（デジタルトランスフォーメーション）を推進できる様にシステムづくりの「内製化」をご支援するサービスです。

- 3つのサービス -

定額サービス	アプリ作成支援サービス	ハンズオン研修サービス
<ul style="list-style-type: none">ナレッジWebサイトテンプレート提供チケットサポート	<ul style="list-style-type: none">kintoneテンプレート導入支援 (SFA、文書管理、人事簿等)UIPathシナリオ作成支援	<ul style="list-style-type: none">kintone ハンズオンサービスUIPath ハンズオンサービス

- 3つの特長 -

1つの契約で複数製品のナレッジを提供 kintoneやUIPathなど、複数製品のナレッジを統合的に活用いただけます。 ※一度、製品を試用していただく予定です。 https://www.ndi.co.jp/	お客様に合わせた3つのプランをご用意 定額サービスは、3つのプランがあり、月額プランは10,000円～月額プランを期間限定でご提供いたします。 ご希望のプランもご相談されるお客様は、プランもご変更しております。	実際に弊社で特別・実演会で活用できるようにナレッジアップロードkintoneアプリの作成やUIPathテンプレートのご提供もいたします。 ご要望に応じて、お客様のシステムづくりを行ってまいります。
---	---	---

内製化支援サービスリーフレット

内製化支援サービスの概要についてご紹介したA4サイズのリーフレットです。サービスの特徴や価格などの情報を簡潔にまとめているので、社内での情報共有や回覧などにご利用ください。

>> [資料をダウンロードする](#)

※右のQRコード、URLからもダウンロード可能です。



<https://bit.ly/3TN03yq>

サイボウズオフィシャルパートナー NDIソリューションズ株式会社

ndis

変化の一步先を。

NDI SOLUTIONS LTD.

- 本社所在地:東京本社(東京都港区)、大阪本社(大阪府大阪市)
新潟本社(新潟県新潟市)、徳島本社(徳島県徳島市)
- 事業拠点:東京/札幌/新潟/横浜/名古屋/大阪/徳島/岡山/福岡
- 資本金:4億円 ●従業員数:約400名

沿革

- 1981年 創業42年のIT企業
- トッパン・ムーア株式会社のソフトウェア事業部門が独立(以後2度親会社の変更)
- IBM社のソリューションプロバイダーとして各種サーバー等の販売及びサービス事業で成長
- 現在はお客様のDX推進のご支援を中心に各種ソリューションをご提供

事業内容

基幹系業務システムからDXご支援までワンストップでご提供

クラウドサービス、インフラソリューション、BI、画像認識AI、AIチャットボット、RPA、ERP等

特長

「ショールーム」ポリシー:自ら導入/利用し、価値を確認し、ご提案する

ndis

変化の一步先を。

NDIソリューションズ株式会社

NDIソリューションズ株式会社

ソリューション戦略本部 マーケティング部

ndi.marketing@ndisol.com